

みやけの風

第 219 号

平成17年(2005年)4月16日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

東京では、先週末が暖かったのと週半ばが雨続きだったので、ソメイヨシノはもう終わり、今度は八重桜のあでやかな色があちらこちらで見られるようになって来ました。空も花ぐもりのようにかすんでいます。三宅島からは、農作物の植え付けなど春の便りが聞かれるようになりました。仕事の帰り道につんだアシタバをタベのてんぷらにするのが楽しみと聞かせてくださった方がいました。なんと豊かな島の暮らしでしょう。

みんなの声

農耕の季節

島も急に暖くなり、あちこちで人々が畑仕事をしています。風の弱い日には、煙のにおいがして、パンパンと竹を燃やす音がしてきます。

北部地区では今、里芋を植える盛りです。竹やぶを切り開き、今年の冬を楽しみに、どこから手に入れたのか種芋をせっせと植えています。

土の肥沃な北部は、竹が生い繁り開墾するのが大変な重労働です。でも、自分の畑でつくったおいしい里芋を食べたい一心で皆がんばっています。

私も昨日、芋を植え終わりました。そして、甘夏を取り終えました。甘酸とともに濃厚な、三宅ならではの甘夏です。そして、今日は剪定をしました。4年間、まともに手入れをしていなかった樹です。枝がボサボサでまともな型ではなくなっています。さてどうやって手をつけようか。何日も前から考えていました。

頭の中には目標とする理想のイメージができていますが、一度の剪定で仕上げるわけにはいきません。枝をバサバサと大量に切っては丸坊主に近くなってしまいます。葉がなくなれば樹が弱り、今年の実はなくなります。

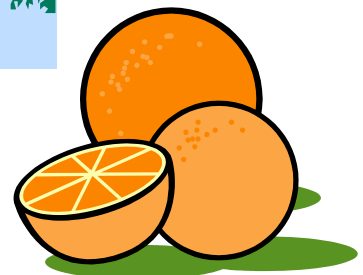
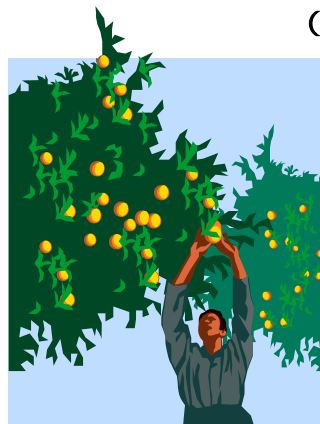
ここであせってはいけない。4年間放って

おいたのだから、これから4年かけて、少しずつ理想に戻していこう。今年切る大きな枝は2本までにしよう。そう自戒して始めました。だけど切り始めると、あの枝も、この枝も切りたくなります。

いかん。ここは演歌でもかけて、心を落ち着かせようと、吉幾三をボリュームをあげてかけました。夕方までになんとかまざるの姿に仕上げることができました。終わってみて思います。この仕事は好きだが、しすぎないことが大切だと。

そして、一日の労働も、やりすぎると次の日にこたえます。やっと帰れたのだから、毎日楽しく働けるように、体をいたわりながら続けていきたいものだと思います。

(三宅島伊豆 大崎 興洋)



島民のための

～ミニミニせいかつ便利帳～

三宅島災害・東京ボランティア
支援センター 三宅島事務所

でんわ 04994-2-1501
04994-2-7130
F A X 04994-2-7131

三宅島災害・東京ボランティア
支援センター 東京事務所

でんわ 03-3260-7573
F A X 03-5229-1646

社会福祉法人あじさいの会
あじさいの里

でんわ 04994-6-1288
F A X 04994-6-7661

三宅村在宅介護
支援センター

でんわ 04994-6-1832
F A X 04994-6-1832

三宅島社会福祉協議会

でんわ 04994-5-7051
F A X 04994-5-7054

三宅村シルバー人材センター

でんわ 04994-6-1244
F A X 04994-6-1003

三宅島漁業協同組合

でんわ 04994-5-0011
F A X 04994-5-0521

七島信用組合 三宅島支店

でんわ 04994-2-0081
F A X 04994-2-0084

三宅村立小学校

でんわ 04994-2-0039
F A X 04994-2-0300

三宅村立中学校

でんわ 04994-2-0049
F A X 04994-2-1376